Only One Earth

タケエイグループ 環境・社会報告書 2016

Takeei Environmental and Social Report

経営理念

資源循環型社会への貢献を目指す

自然との調和、地域住民との共生を基調として、
環境負荷の低減を前提とした資源の循環的活用の
社会システム形成に貢献するために、
多様なニーズに対応した
リサイクル技術の確立と施設の充実を推進する。

会社概要（2016年7月末現在）

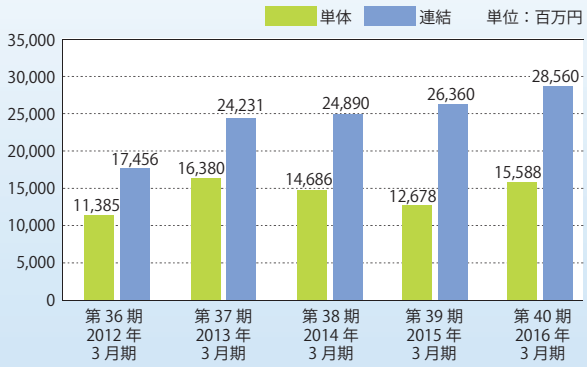
会社名	株式会社 タケエイ
代表者	代表取締役社長　山口 仁司
設立年月日	1977年3月7日
資本金	6,640百万円
所在地	東京都港区芝公園2丁目4番1号 A-10階
	TEL. 03-6361-6830（代表）FAX. 03-6361-6835
従業員数	単体 605名　連結 1,223名
上場取引所	東京証券取引所市場第1部

免責事項

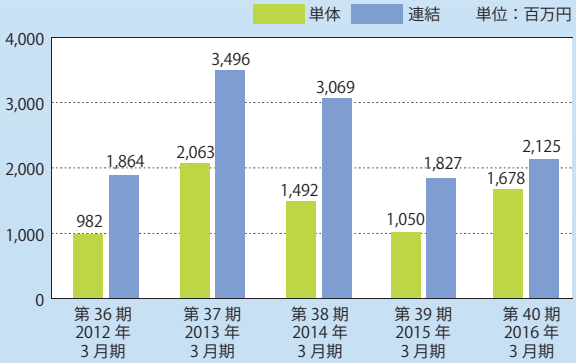
本報告書に含まれる将来に関する記述については、記述した時点で入手できた情報や計画に基づいているため、諸与件の変化によって異なる結果になることがあります。読者の皆さまには、あらかじめご了承いただきますようお願い申し上げます。

事業推移

売上高



経常利益



CONTENTS

経営理念 ……1
会社概要 ……1
編集方針 ……2
トップメッセージ ……3
事業の歩みと展望 ……5
事業の概要 ……7

特集 1　タケエイグループの環境ソリューションサービス
お客さまの多様なニーズやお悩みを
一貫して解決・ご支援します ……9

特集 2　地域と共生する再生可能エネルギー事業
タケエイグループが進める
「地産地消」バイオマス発電事業の
地域や環境とのかかわり ……11

事業ハイライト ……15

経営体制
コーポレート・ガバナンス ……16
コンプライアンス推進体制 ……16
情報セキュリティルールの徹底 ……16

環境とのかかわり
環境マネジメント ……17
環境目標と実績 ……18
環境負荷低減の活動 ……19
タケエイグループの再資源化ソリューション ……20
エコ・ファーストの取り組み ……23

地域・社会とのかかわり
地域との共生を目指す活動 ……25

安全・衛生のために
労働安全衛生の取り組み ……27

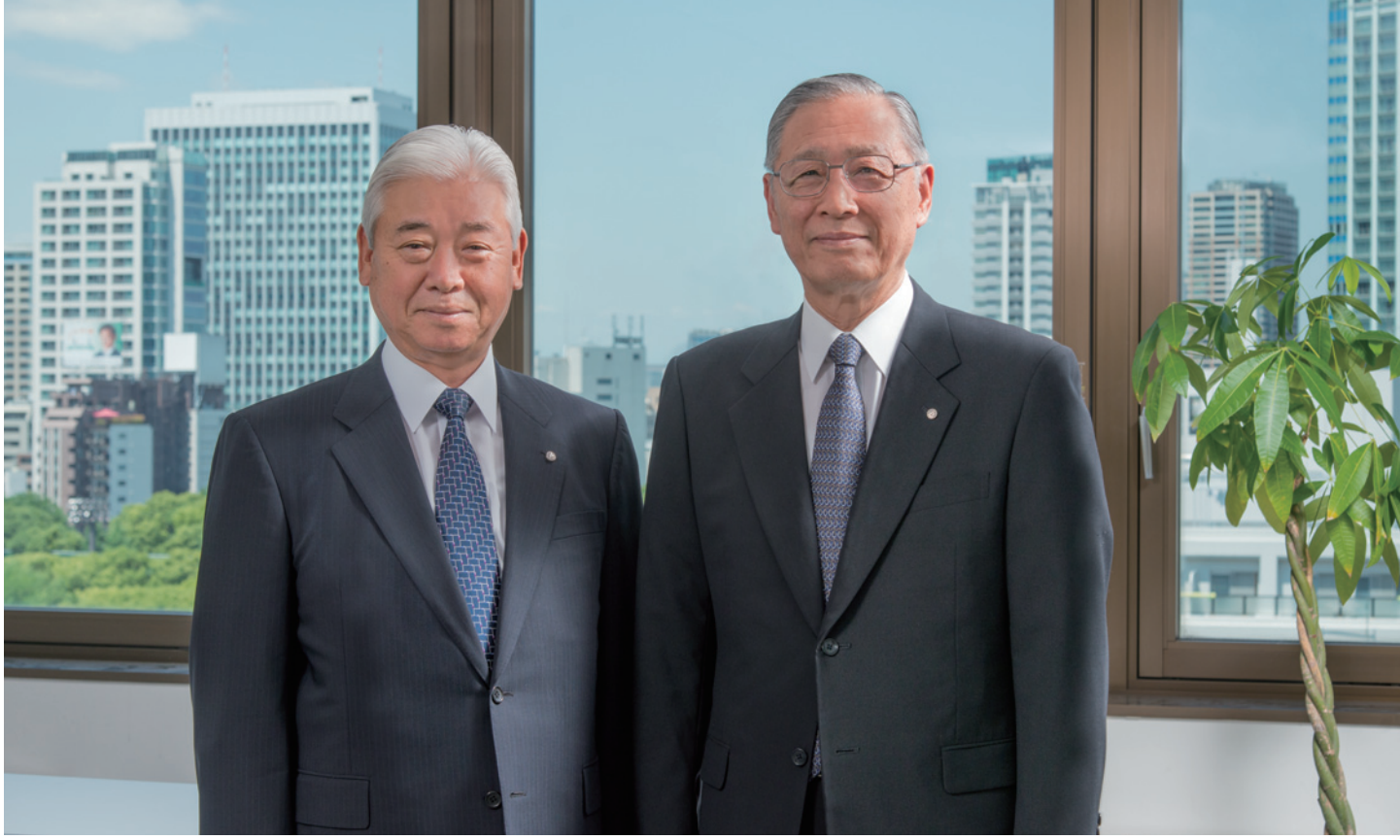
タケエイグループの CSR に関する取り組み ……29

編集方針

本報告書は、タケエイグループの事業全体を説明するとともに、環境および社会的側面における活動実績を報告しています。

●報告対象期間
2015年度（2015年4月1日から2016年3月31日まで）
※一部上記期間以外の内容も含んでいます。
●報告対象組織
原則としてタケエイグループ（（株）タケエイおよびグループ会社（連結子会社23社））を対象としています。タケエイグループ全体を対象としていない報告は、個々に対象範囲を記載しています。
●参考ガイドライン
環境省「環境報告ガイドライン（2012年版）」
●発行日
2016年9月（次回予定2017年9月）
●本報告書に関するお問合せ先

株式会社 タケエイ CSR推進部 ISO推進グループ
〒105-0011 東京都港区芝公園2丁目4番1号 A-10階
TEL: 03-6361-6836　FAX: 03-6361-6839



トップメッセージ

5年先、10年先を見据えたビジョンのもと「総合環境企業」として資源循環型社会の構築に貢献していきます

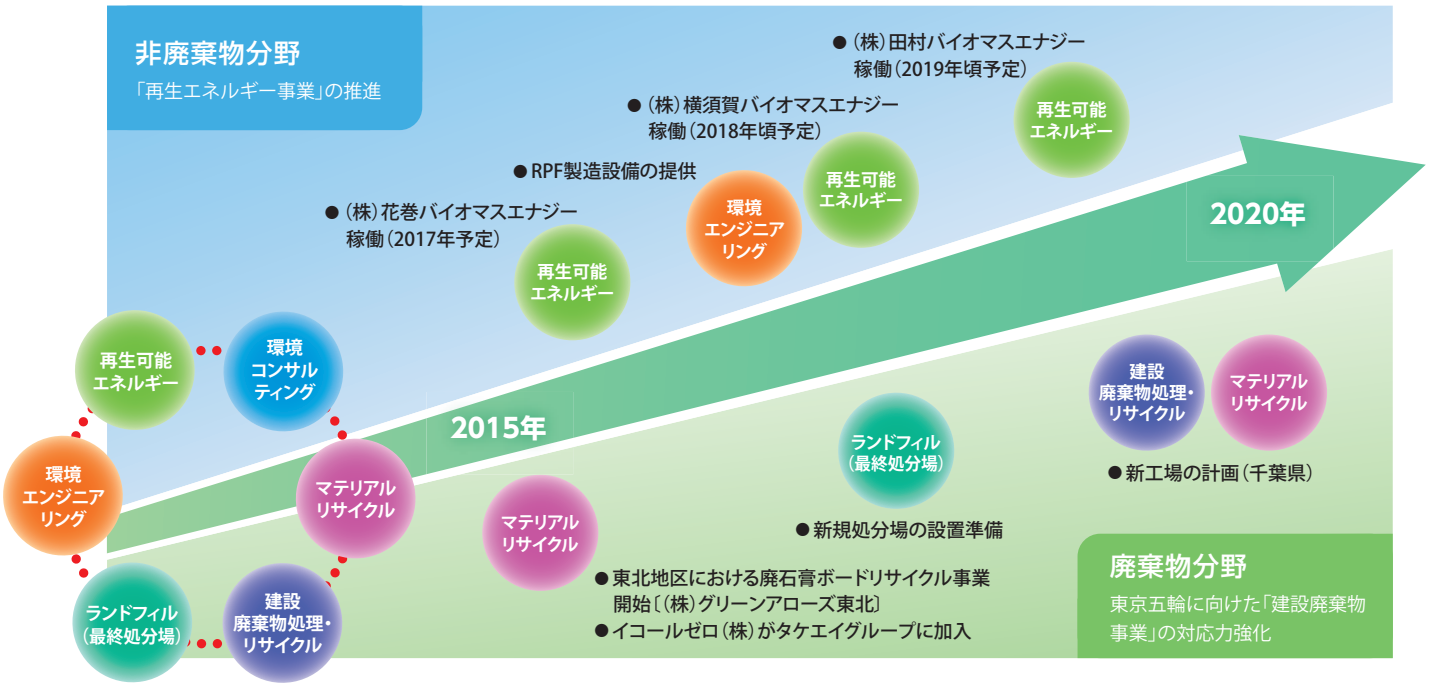
このたびの熊本県を中心とする地震により被災された皆さま、ご関係者の皆さまに心よりお見舞い申し上げます。

被災地の一日も早い復興がなされますことをお祈りいたします。

さて、「資源循環型社会の実現に貢献する」ことを経営理念に掲げる私たちタケエイグループは、昨年、新たな成長戦略となる中期経営計画「VISION for 2020」を策定しました。これは、東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会を契機に大きな変貌を遂げる10年先を見据えた、今後5ヶ年の経営計画であり、「建設廃棄物処理・リサイクル」「マテリアルリサイクル」「ランドフィル（最終処分場）」からなる廃棄物処理・リサイクル事業と、廃棄物処理以外の事業である「再生可能エネルギー」「環境エンジニアリング」「環境コンサルティング」の、6つのセグメントそれぞれについて事業計画を掲げています。

初年度となる昨年度は、現在の主力事業である建設廃棄物処理・リサイクル事業について、2015年6月に株式会社タケエイと株式会社リサイクル・ピアを合併し、東京（東京リサイクルセンター）・神

中期経営計画「VISION for 2020」



奈川（川崎リサイクルセンター）・千葉（四街道リサイクルセンター）の3工場を有機的かつ一体的に運用できる体制を構築しました。

計画策定時に前提とした都市の再構築に向けた大きな動きは、残念ながらまだ活発化したとは言えない状況にあります。しかしながら東京都では、「東京都建設リサイクル推進計画」を2016年4月に更新しており、「環境を優先する大会」を理念に掲げる東京2020オリンピック・パラリンピック関連等の工事や、社会資本の更新時期の到来に向けた建設副産物の大量発生を見込んでおります。私たちタケエイグループとしても国家的事業に最大限貢献していきたいと考えています。

また、再生可能エネルギー事業については、グループ第一号となる（株）津軽バイオマスエナジー平川発電所が2015年12月に営業運転を開始しました。地元の廃木材やりんごの剪定枝を燃料に発電を行い、地元の小中学校等へ供給しています。今後、資源をより有効活用するため、発電過程で発生する熱についても、農業での利用を検討していきます。

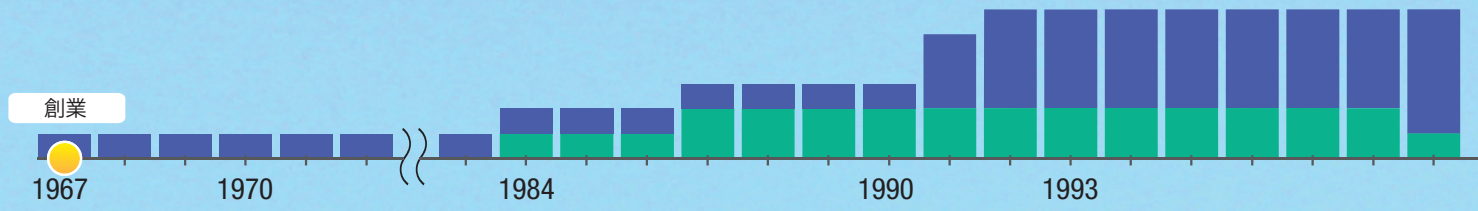
株式会社タケエイは創業50年を迎え、これからも廃棄物処理のリーディングカンパニーとして、そして「総合環境企業」を目指すタケエイグループとして、地域社会や自然と共生しながら、資源循環型社会への貢献と地球環境保全に向けて、さまざまな取り組みを進めてまいります。

代表取締役会長　三本　守
代表取締役社長　山口　仁司

事業の歩みと展望

「総合環境企業」を目指し、地域社会や自然環境と共生する事業を拡充しています

タケエイグループは、廃棄物の適正処理や、再生可能エネルギー事業を通じて環境保全や地域社会の振興に貢献しています。さらなる機能・地域・質の拡充を図り、新規事業の開発はもとより、業務提携やM＆Aを積極的に実施し、グループ各社が持つ機能や領域を相互補完しながら事業を展開しています。



1970　廃棄物処理法制定

- 高度経済成長に伴う建設ブームによる廃棄物の増加
- 公害問題の深刻化

1991　廃棄物処理法改正

- 適正処理を求める社会ニーズの高まり
- さらなる規制の強化

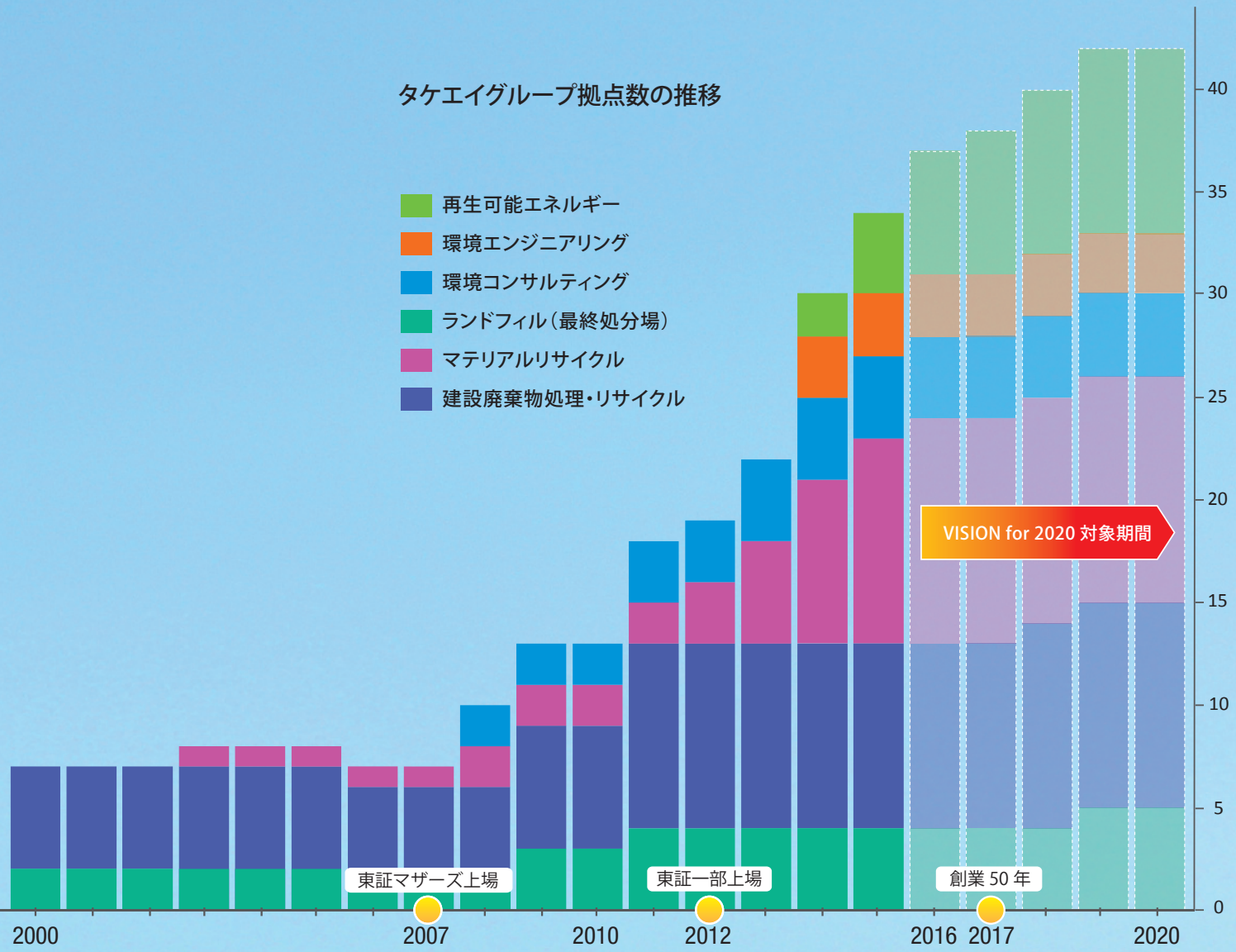
廃棄物分野における事業展開

1984〜1992

- 廃棄物の増加や多様化に伴い、適正処理を求める社会ニーズの高まりを背景に、1991年に廃棄物処理法が改正されました。
- タケエイグループはこの廃棄物処理法改正に先駆け、創業者がトラック1台から始めた収集運搬について強化を図りました。さらに千葉県成田市および千葉市に安定型最終処分場が、神奈川県横浜市、神奈川県川崎市および千葉県四街道市に中間処理工場が完成し、収集運搬・中間処理・最終処分までの一貫体制を確立しました。

非廃棄物分野における事業展開

タケエイグループ拠点数の推移



2000 循環型社会形成推進基本法制定

●循環型社会構築に向けたリサイクルの推進が新たなテーマに

2011 東日本大震災の発生

●東日本大震災に伴うエネルギー危機
●持続可能な社会の形成に向けた意識のさらなる高まり

2000〜2006

●循環型社会形成推進基本法の制定により、リサイクル（資源循環）による環境負荷低減を目指す枠組みができました。
●タケエイグループでは、当時最新の設備を導入した（株）リサイクル・ピア東京エコタウン工場*および24時間365日受入れ可能な（株）タケエイ川崎リサイクルセンターが完成し、リサイクル製品の品質とリサイクル率の向上を実現しました。

2011〜2016

●2011年3月に発生した東日本大震災では、千葉県旭市、岩手県釜石市、岩手県大槌町、宮城県亘理町、福島県楢葉町において、現地での災害廃棄物の処理に携わるとともに、（株）リサイクル・ピア東京エコタウン工場*において、広域処理の一部としての災害廃棄物受入れを行いました。
●また、特定の品目に特化したリサイクル工場を充実させることで、さらなる循環型社会への貢献を実現しました。

2016〜

●東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会に伴う建設廃棄物の増加を見据え、リサイクル事業のさらなる強化を図っていきます。

＊現在の（株）タケエイ東京リサイクルセンター

2004

●2004年に廃棄物処理業・リサイクル事業を手がける10社とともに、バイオマス発電用燃料を供給する新エネルギー供給（株）を設立。また、廃棄物発電を行う（株）市原ニューエナジーへの出資を通じ、廃棄物を活用するエネルギー事業に参入しました。

2008〜2016

●環境保全（株）および（株）アースアプレイザルがタケエイグループに加わり、廃棄物発生段階でのコンサルティング・事前調査・環境分析等が可能になりました。
●富士車輌（株）の子会社化により、設備や車両の開発・製造といったハード面での機能が加わり、事業の効率化が実現しました。
●2013年に森林資源の保全や地域経済の活性化等につながるバイオマス発電事業に参入し、さらに2014年には最終処分場跡地を活用した太陽光発電施設が完成しました。

2016〜

●創業から培ってきた廃棄物処理の知見を礎に、廃プラスチック等を原料とする固形燃料を活用した発電事業への参入や、再生可能エネルギー事業のさらなる推進を目指します。

事業の概要

「総合環境企業」としてのビジネスモデルを構築し、社会の持続可能な発展に貢献します

廃棄物分野

建設廃棄物処理・リサイクル

（株）タケエイでは川崎リサイクルセンター、東京リサイクルセンター、四街道リサイクルセンターの3つの拠点工場において、（株）信州タケエイでは諏訪リサイクルセンターにて建設工事や解体工事等から発生する建設混合廃棄物を中心としたリサイクルを行っています。建設混合廃棄物は、さまざまな品目が混在、かつ複合した状態で排出されることが多いため、リサイクルが難しいとされていますが、各種の機械設備や再資源化設備を導入し、徹底したリサイクルを行っています。

（株）タケエイ
川崎リサイクルセンター

マテリアルリサイクル

タケエイグループは、再資源化の効率性を高めるため、特定の品目を専門としたリサイクル工場を充実させています。現在、廃石膏ボードを再資源化する（株）ギプロ、（株）グリーンアローズ関東、（株）グリーンアローズ東北、再生骨材・再生砕石を製造する（株）池田商店、（株）信州タケエイ（安曇野リサイクルセンター）、鉄・非鉄スクラップ等のリサイクルを行う（株）タケエイメタル、燃えがらや鉱さい等のリサイクルを行う東北交易（株）、工場の製造工程から排出される廃液等のリサイクルを行うイコールゼロ（株）の計8拠点を有しています。

（株）グリーンアローズ関東
追浜リサイクルセンター

ランドフィル（最終処分場）

現在タケエイグループでは、（株）タケエイおよび（株）信州タケエイで安定型最終処分場を計2ヶ所、（株）北陸環境サービスで管理型最終処分場を1ヶ所保有しています。いずれも、法令や条例等の規制を遵守し、さらに独自の厳しい基準で徹底した水質等の管理を行っています。また、（株）門前クリーンパークでは、新たな管理型最終処分場を開発中です。地域の皆さまに安心していただける安全な最終処分場の実現を目指して、積極的に説明会の開催や情報公開を行っています。

（株）北陸環境サービス
（管理型最終処分場）

タケエイグループでは、各地の企業と積極的に連携を深め、事業領域と事業地域を拡大しています。これにより、お客さまが抱えている廃棄物や環境に関するさまざまな課題について、最適なソリューションサービスをワンストップでお届けできる体制づくりを進めています。

非廃棄物分野

再生可能エネルギー

最終処分場跡地を有効活用した太陽光発電事業を（株）タケエイエナジー＆パークで行っています。また木質バイオマス発電を（株）津軽バイオマスエナジーが行い、（株）津軽あっぷるパワーを通じて発電した電力を供給しています。その他にも（株）花巻バイオマスエナジーが2017年、（株）横須賀バイオマスエナジーが2018年頃、（株）田村バイオマスエナジーが2019年頃の稼働に向けて準備を進めています。花巻バイオチップ（株）ではバイオマス発電の燃料材である木質チップの生産を開始しており、また（株）タケエイグリーンリサイクルでは剪定枝等を敷料やバイオマス発電用燃料チップに加工しています。（特集記事を11～14ページに掲載）

（株）タケエイエナジー＆パーク
タケエイソーラーパーク成田
（最終処分場跡地での太陽光発電）

環境コンサルティング

廃棄物処理サービスの最上流に位置するのが、コンサルティング・事前調査・分析等の事業です。タケエイグループでは、（株）アースアプレイザルや環境保全（株）がこの部門を担当しています。社会問題となっている有害廃棄物等の適切な処理の提案・コンサルティング等を通じ、お客さまのニーズに応えます。

環境保全（株）（分析風景）

環境エンジニアリング

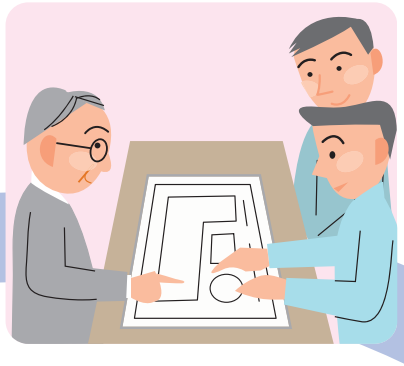
富士車輌（株）では、環境装置や特殊車両の開発・製造・販売を行っています。タケエイグループではさらなるリサイクルの推進に向けて、同社の有する機械設計のノウハウを活かし、新たな環境装置の開発を進めます。開発された環境装置は、グループ内へ導入する他、社外へも販売しています。

富士車輌（株）（RPF製造設備）

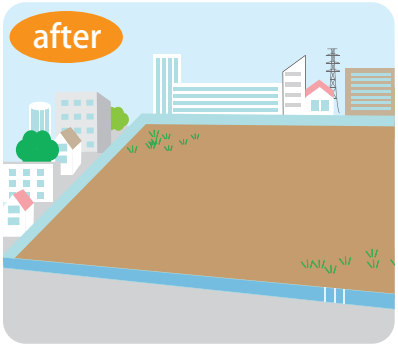
お客さまの多様なニーズやお悩みを一貫して解決・ご支援します

さまざまな課題

環境・法令遵守・安全・コスト等さまざまな面における最善策をご提案し、お客さまの抱える課題をトータルで解決します。



タケエイグループの環境トータルソリューション



課題の解決

お客さまの課題が解決した後も、アフターフォローまでしっかりと行います。

土壌汚染処理

グループ会社・業務提携先等と連携体制を整えており、安心・安全な処理のご提供はもちろんのこと、土壌汚染に関わるあらゆる問題に対しても総合的にサポートを行います。

タケエイグループは、グループ各社がそれぞれの強みを活かした事業活動を展開しています。廃棄物の適正処理・リサイクルにとどまらず、環境コンサルティングや環境分析事業等、多様化するお客さまのニーズに対応できるさまざまなサービスをお届けしています。

コンサルティング

解体工事等を行う前段階において、アスベストや PCB 等の有害物、土壌汚染の有無等の調査を行い、施工に伴う環境リスクの評価を行います。さらに、関連する法規制や施工手順も踏まえ、最適な対策・管理方法をご提案します。

主要施行実績

受注先	製造メーカー（工場解体工事）
実施内容	解体前アスベスト調査、土壌調査、工場解体、埋設廃棄物撤去
敷地規模	約16,500㎡
工期	4ヶ月

受注先	製造メーカー（工場解体工事）
実施内容	解体前アスベスト調査、工場解体、汚染土壌対策、埋設廃棄物撤去
敷地規模	約33,000㎡
工期	8ヶ月

調査・分析

水質・大気・土壌・底質等の分析をはじめ、PCB・ダイオキシン・アスベスト・放射性物質といった有害物の分析・検査も行っています。迅速かつ高精度な分析により、適正処理に向けたサポートを行います。

アスベスト除去・解体工事

元請として、解体工事における現場施工を実施します。アスベスト除去については、事前調査・分析結果を基に、現場の状況に合わせた適切な工法で除去工事を行います。

お客さまの声

今回、超短納期での解体要件（工期４ヶ月のうち１ヶ月は工場稼働中）に対し、安全や近隣への騒音・振動に配慮した綿密な計画のもと実施していただきました。詳細なデータによる裏付けと進捗報告により状況が正確に把握でき、予期せぬ埋設物の廃棄にも迅速に対応していただきました。土地引渡し後の建物建設工事業者さんからは、しっかりとした仕事をして引渡していただいたことに感謝されました。<製造メーカー様より>

廃棄物処理

解体工事等で発生した廃棄物は、タケエイグループが有する各種処理施設等で処理します。リサイクルが可能なものは再資源化され、リサイクルできないものについては管理型・安定型最終処分場にて適正に処分します。

タケエイグループが進める「地産地消」バイオマス発電事業の地域や環境とのかかわり

「地産地消」バイオマス発電事業の事例（(株)津軽バイオマスエナジー）

津軽地方の豊富な木質資源

豊かな森林資源

国内トップクラスの
生産量を誇るりんご畑

未利用の間伐材や、農家の負担と
なっていた大量のりんご剪定枝等

地元農林業、
製材業の方々
が出資

写真左から津軽バイオチップ(株)〔木質チップ加工工場〕、
(株)津軽バイオマスエナジー〔木質バイオマス発電所〕

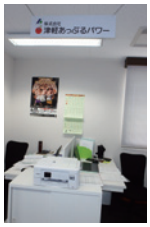
木質バイオマス発電は、間伐材等の未利用材をチップに加工し、そのチップを燃料にして発電します。山林未利用材の有効活用による森林保全や林業の活性化に加え、土壌・空気・水の浄化といった副次効果も期待されます。タケエイグループでは、燃料となる間伐材等の調達から電力供給まで地域に根ざして行うことで、地域と共に生きる再生可能エネルギー事業を進めています。

2015年12月、(株)津軽バイオマスエナジーが発電をスタート。(青森県平川市)

タケエイグループのバイオマス発電事業第一号として準備を進めてきた(株)津軽バイオマスエナジー平川発電所が、2015年12月に売電を開始しました。

発電された電気は、タケエイグループの小売電気事業者である(株)津軽あっぷるパワーやその他の電力会社に売電され、地元の公共施設や事業者等に供給されています。

平川市も出資



(株) 津軽あっぷるパワー
〔小売電気事業者〕

地元公共施設・一般家庭等
〔電力需要家〕

年間発電量(計画)	約49,500MWh/年*1 (約14,000世帯分/年)*2
年間燃料木材集荷量(計画)	約58,500t/年(間伐材)
	約 3,500t/年(製材端材)
	約10,000t/年(りんご剪定枝)

*1「6,250kW(発電能力)×24時間/日×330日/年」の計算式で算出
*2 一般家庭を300kWh/月として試算した場合

官民一体となった、
新しい「地産地消」バイオマス発電事業モデルを推進

地域に根ざした
バイオマス発電スキームが始動

2015年12月、青森県初の木質バイオマス発電所として（株）津軽バイオマスエナジー平川発電所が稼働を開始しました。発電用の燃料（木質チップ）となる木材の供給を地元の林業従事者やりんご農家が行い、その後チップへの加工を農林業や製材業に携わる地元企業が出資する津軽バイオチップ（株）で行います。そして平川市も出資する（株）津軽バイオマスエナジーで発電事業を行うという官民が一体となった事業スキームを構築しました。周辺地域の未利用材を活用することにより、健全な森の育成に貢献しながら、低炭素型のエネルギーを創出します。

雇用創出、林業活性化等でも
地域に貢献

（株）津軽バイオマスエナジーの木質バイオマス発電は、さまざまな面で地域への波及効果が見込まれています。例えば雇用の面では、発電事業に携わる雇用の他にも、間伐材の供給や木質チップへの加工等の関連事業にかかわる雇用も生まれています。また、これまで未利用だった間伐材を活用することにより地元林業の推進、さらには森林整備による減災にもつながり、地域の活性化につながっています。今後は、発電に伴って発生する熱を利用した事業も検討しており、さらなる地域への貢献を目指します。

（株）津軽バイオマスエナジー 平川発電所内の様子

津軽バイオチップ（株）の木質チップ加工の様子

VOICE

りんご農家より

株式会社 釈迦のりんご園
取締役専務　工藤 峰之 様

**焼却処分をしていたりんご剪定枝が、
農家の収益とグリーン電力の源となりました**

以前は、剪定したりんごの樹の太い部分は薪にしてストーブで燃やしたり、細かい部分は畑で燃やすのが常でした。しかし最近はストーブの燃料も薪から石油へと替わったため、ほとんどの農家がりんご剪定枝を畑で燃やすしかありませんでした。けれども今は煙を気にする人も増え、私たちの地域でも畑で草木等を燃やすことは容易にできなくなっているご時世です。そんな中、バイオマス発電所ができたことで、りんごの剪定枝を買い取ってもらえ、しかもそれがグリーン電力に生まれ変わることになりました。私たちりんご農家にとっては、新たな収益源が確保でき、エネルギー面で地域にも貢献できるので大きな励みになっています。

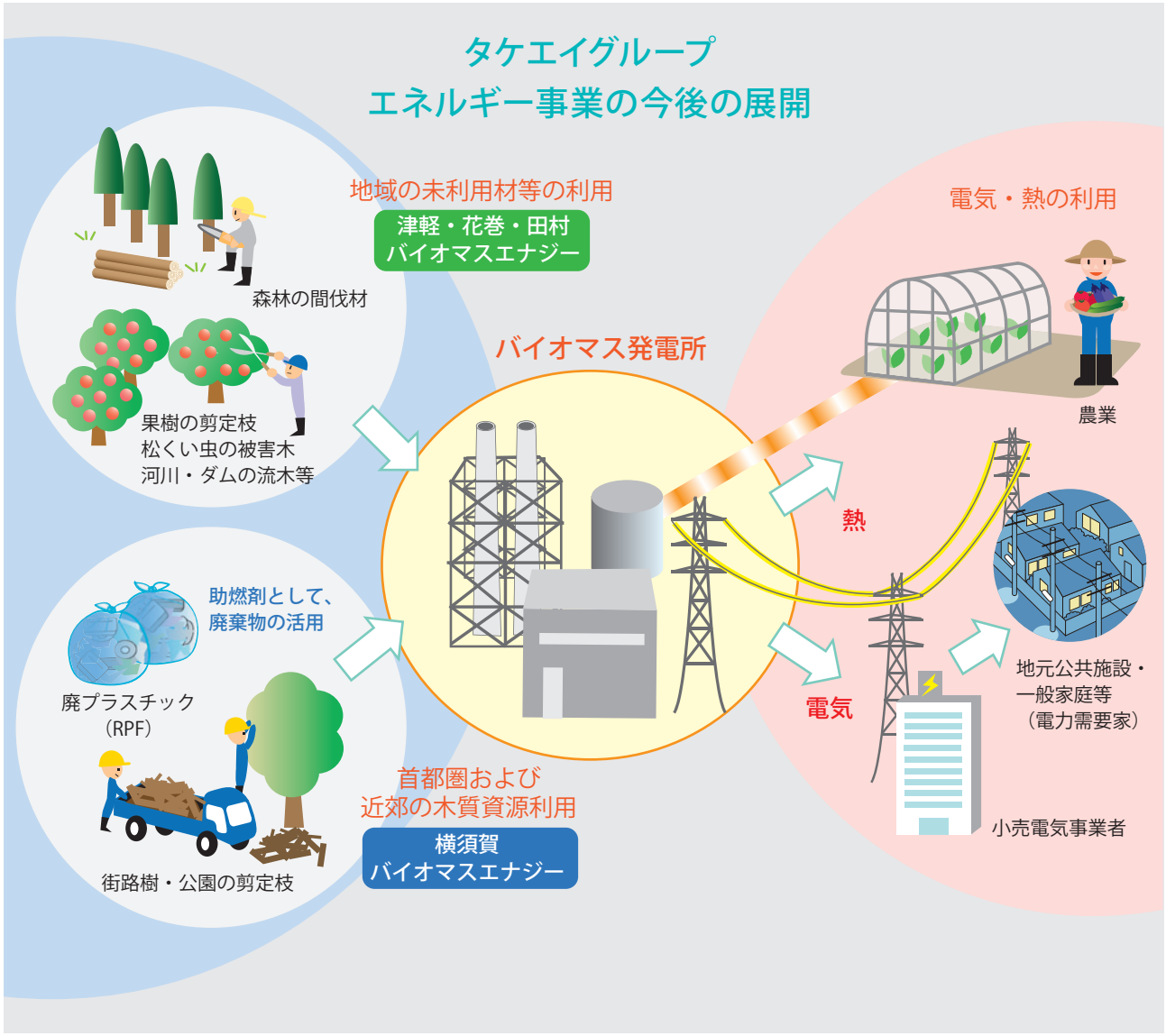
VOICE

林業関係者より

有限会社 白川林産
鹿内 亮佑 様

**山に放置するしかなかった未利用材から利益が生まれ、
地域の森林整備が活気づいてきました**

バイオマス発電所ができたことにより、今まで売先がなく山に放置するしかなかったC材・D材が売れるようになり、我々森林事業者の選択の幅が広がりました。特に津軽地方には今までC材・D材の卸先がなかったため、南部地方や県外まで輸送コストをかけて木材を運んでいましたが、近場に木材の受入れ先ができたことで輸送コストの大幅削減ができたのが最大のメリットだと思います。コストを削減できた分、今までできなかった植林や請負間伐など森林整備等に力を入れることができますし、バイオマス発電所ができてから従業員を増やした業者もいると聞いています。バイオマス発電所は今後の林業にとって、なくてはならない存在となるのではないでしょうか。



地方型に都市型も加えて、発電事業モデルを各地へ展開

タケエイグループでは津軽地方における地産地消型のバイオマス発電事業を他地域でも展開していく予定です。岩手県花巻市では、間伐材等に加えて、周辺の河川やダムから撤去される流木、松くい虫の被害にあった樹木の活用も検討しており、現在は発電に先駆け、花巻バイオチップ(株)で燃料となる木質チップの生産を開始しています。さらに福島県田村市でも、間伐材等を活用したバイオマス発電施設の設置を計画しています。

また、市街地の公園や街路樹から発生する伐採木・剪定枝、造園業や建設業から排出される廃木材を活用した「都市型バイオマス発電」を行う(株)横須賀バイオマスエナジーも2018年の稼働を目指し、準備を進めています。この都市型バイオマス発電では、RPF*も燃料として活用することを検討しています。

バイオマス発電で発生する熱エネルギーの約7割は排熱や蒸気として放出されます。今後は、この熱エネルギーの有効活用も視野に入れ、まずは植物工場への熱エネルギーの供給を検討中です。将来的には、電気だけでなく熱や蒸気のエネルギーも地域へ供給できるようにし、バイオマス発電により生まれるエネルギーを余すところなくまちづくりに役立てていきます。

花巻バイオチップ(株)の竣工式

＊RPF：Refuse derived paper and plastics densified Fuelの略称であり、主に産業系廃棄物のうち、マテリアルリサイクルが困難な古紙および廃プラスチック類を主原料とした高品位の固形燃料(出典：一般社団法人 日本RPF工業会)

イコールゼロ（株）がタケエイグループに加入

2015年9月、長野県長野市のイコールゼロ（株）がタケエイグループに加わりました。同社は、主に製造業（メッキ加工・プリント基板製造・半導体製造等）の表面処理工程（製造部材の薬品洗浄等）から排出される廃液（廃酸・廃アルカリ・廃油・汚泥）の収集運搬・中間処理・再資源化を行っており、とりわけ廃液から純度の高いニッケル・銅を回収することを強みとしています。

タケエイグループにとって、同社の加入は「廃液処理」「有害産業廃棄物処理」という新たな分野への事業進出となります。これまで未対応であった分野の解決策を多くのお客さまにお届けし、そのニーズに応えることが可能となりました。

イコールゼロ（株）のリサイクル工場と車両

富士車輌（株）のリサイクルテストセンターがオープン

富士車輌（株）は2015年10月、滋賀県守山市の本社工場内にリサイクルテストセンターをオープンしました。同センターでは、破砕から選別・資源化までの一連の工程を検証し、新たな製品開発に取り組んでいます。また、お客さま自らが軟質・硬質プラスチックやコンクリートがら等をサンプルとして持ち込み、破砕から選別・資源化までをテストすることも可能です。

同センターにおける検証を通じて、リサイクルの推進と埋立処分量の削減に貢献していきます。

富士車輌（株）のリサイクルテストセンター

（株）タケエイグリーンリサイクルの第3工場が完成

2016年7月、（株）タケエイグリーンリサイクルの第3工場が山梨県南都留郡に完成しました。同社では、自治体・造園業・建設業から排出された剪定枝や生木を木質チップに加工し、バイオマス発電燃料や地元の酪農家が使用する敷料としています。また酪農家で堆肥化した牛糞堆肥を再び買取り、有機肥料を製品化しています。同工場では、全自動袋詰め機を導入しており、袋詰めからパレットへの積上げまでを自動化し製品化しています。これまで各拠点で行っていた袋詰め作業を同工場に集約したことにより、作業効率の向上はもとより、作業環境や安全面に配慮した工場となっています。今後も良質な有機肥料の生産を通じて100%リサイクルの推進に貢献します。

（株）タケエイグリーンリサイクル第３工場と
袋詰めされた有機肥料

経営体制

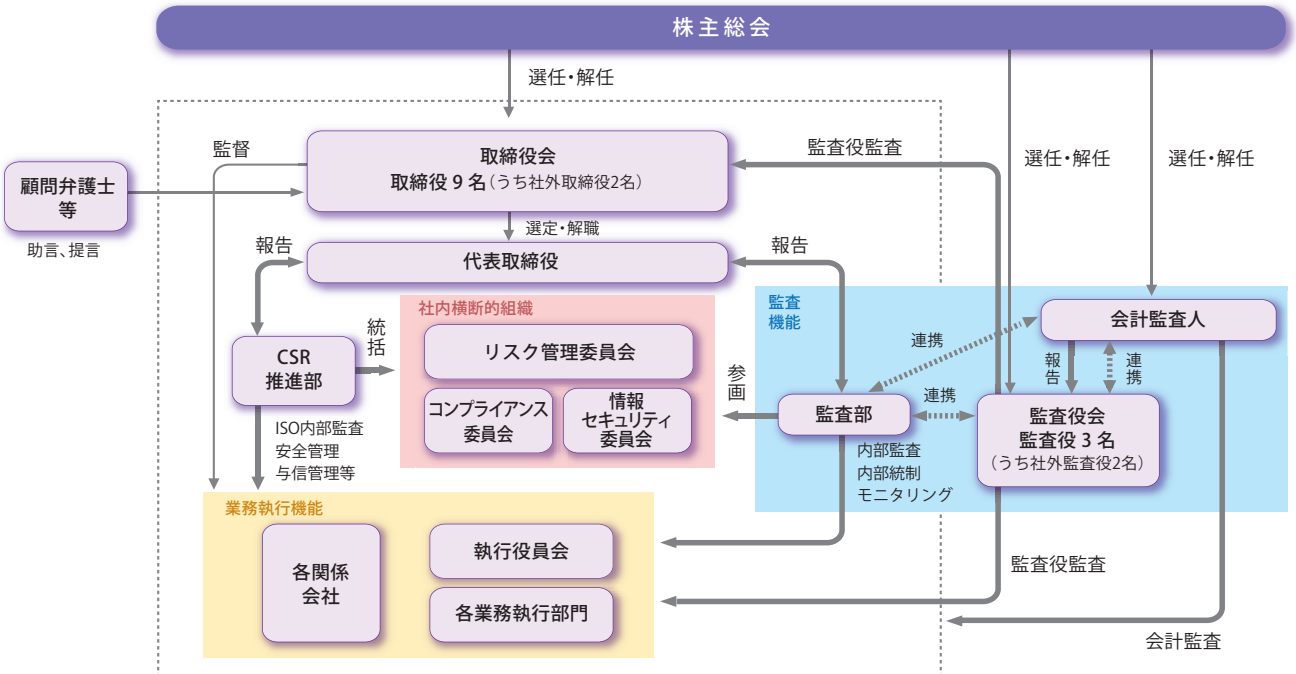
グループとしての企業価値を継続的に高めていくにあたり、
公正かつ透明な経営体制を整備・運用することで、
健全な事業環境を維持しています。

コーポレート・ガバナンス

タケエイグループで手掛ける事業は、株主、従業員、取引先、さらには当社グループの事業所周辺の地域住民の方々等、つながりあうステークホルダーとの健全な信頼関係のもとに成立するものととらえ、健全な経営の推進と社会的信頼に十分に応えるために、コーポレート・ガバナンスの着実な実践を重要な経営課題として位置づけています。

（株）タケエイの取締役会は社外取締役2名を含む9名の取締役で構成し、経営上の重要事項を審議・決定するとともに、取締役の職務の執行を監督しています。また、社外監査役2名を含む3名の監査役も取締役会に出席し、法令・定款等に基づき取締役の職務執行状況を確認するとともに、必要に応じて意見を述べています。常勤監査役は取締役会以外の重要な会議にも出席し、取締役等への意見聴取や資料の閲覧、主要な事業所への往査等を通じて取締役の職務執行が適正に行われているかを監査しています。

■コーポレート・ガバナンス体制（2016年7月末現在）



コンプライアンス推進体制

（株）タケエイでは、コンプライアンスに関する審議・推進の社内横断的組織として「コンプライアンス委員会」を設置し、法令等遵守の徹底に努めています。また、グループ各社の法令等遵守状況についても、本委員会にて一元的に把握・管理する体制を構築しています。

情報セキュリティルールの徹底

タケエイグループでは、情報管理のさらなる徹底を図るため、「情報セキュリティルール5ヶ条」を制定しています。定期的に情報セキュリティに関する注意事項等の周知も実施し、情報セキュリティの確保に努めています。

環境とのかかわり

環境に携わる企業として、環境負荷の低減、資源とエネルギーの有効活用、環境貢献活動等、事業全体を通して地球環境との共生につながる活動を推進しています。

環境マネジメント

タケエイグループ環境基本方針

タケエイグループでは、経営理念およびタケエイグループ企業行動規範に基づく「環境基本方針」を制定しています。環境基本方針では4つの活動テーマを定めており、グループ各社はこの方針に沿って環境活動を推進しています。

タケエイグループ環境基本方針

タケエイグループは、環境に携わる企業として、企業と社会がともに持続的成長が可能な未来を実現すべく、次の4つを活動テーマに掲げ積極的に取り組みます。

1. 資源循環型社会の実現に貢献します。
2. 低炭素社会の実現に貢献します。
3. 地域や社会に根ざした環境活動を推進します。
4. 環境活動の推進体制を充実します。

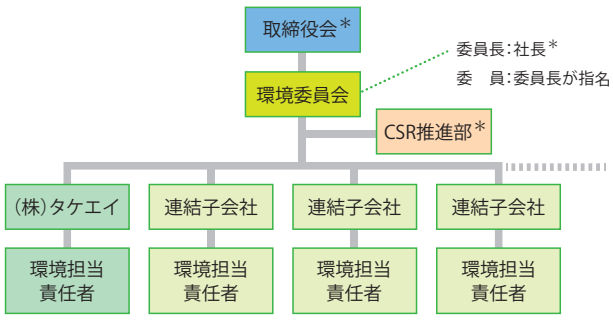
タケエイグループ環境基本方針は、ホームページで全文を公開しています。 ☞ http://www.takeei.co.jp/environment01.html

タケエイグループ環境推進体制

タケエイグループでは、環境の保全と環境負荷の低減に配慮した企業活動に取り組むため、環境推進体制を整備しています。

環境活動全般にかかわる報告や協議を行う場として「環境委員会」を設け、さらにグループ各社に「環境担当責任者」を設置し、会社を横断したグループ全体での環境活動の推進を行っています。

■タケエイグループ環境推進体制



＊(株)タケエイ

マネジメントシステムの運用状況

タケエイグループでは、継続的に環境改善活動を推進するため、ISO14001またはエコアクション21の認証を取得しています（右表のとおり）。(株)タケエイでは両マネジメントシステムにおいて、2015年度の外部審査で不適合はありませんでした。

また、関係する環境法規制等についても重大な違反はありませんでした。今後も引き続き、環境法規制等の遵守を徹底していきます。

■環境マネジメントシステム認証の取得状況

環境認証の種類	取得組織	取得(登録)年月
ISO14001	(株)タケエイ＊1	2001年2月
	(株)北陸環境サービス	2004年7月
	(株)信州タケエイ＊2	2001年12月
	富士車輌(株)＊3	2001年3月
	(株)タケエイグリーンリサイクル＊4	2007年6月
	イコールゼロ(株)	2001年3月
エコアクション21	(株)タケエイ東京リサイクルセンター	2007年9月
	(株)池田商店	2007年8月

＊1　【営業】東京／神奈川／千葉／住宅、【収集運搬】物流管理／塩浜リサイクルセンター、【中間処理】川崎リサイクルセンター／四街道リサイクルセンター、【最終処分】成田／大木戸、【本社】管理部門
＊2　本社、環境事業、解体事業　　＊3　本社　　＊4　本社、富士ヶ嶺工場

環境目標と実績

タケエイグループでは毎年度、事業活動における環境目標を具体的に策定し、その達成に向け取り組んでいます。そして、達成状況を把握・評価した上で、次年度の活動の改善に活かしています。

■2015年度　子会社における環境目標とその達成状況

☺目標達成　☹目標に届かず

項目	社名	目標設定内容	年度目標	達成状況/未達理由	通期
リサイクル率の向上／最終処分量の低減	(株)北陸環境サービス	中間処理(破砕)対象廃棄物の最終処分比率削減	23%以下	17.4%	☺
	(株)信州タケエイ	リサイクル率の向上	91.9%以上	89.4% 【未達理由】選別精度が当初の見込みを達成できず、リサイクル先への搬出が実現できなかったため	☹
	(株)タケエイメタル	廃棄物排出量の削減	1,484t/年以下(-2%)	1,443t(-4.7%)	☺
	(株)タケエイグリーンリサイクル	再資源化の促進	敷料生産2,000 t 以上	敷料生産 16,732t	☺
CO_2排出量の削減	(株)池田商店	CO_2排出量の削減 電気使用量(工場)	170,000kWh以下	169,061kWh	☺
		CO_2排出量の削減 軽油使用量(収集運搬車)	200,000ℓ以下	193,928ℓ	☺
	環境保全(株)	燃費の向上(営業車)	11.09ℓ以上	12.78ℓ	☺
	(株)信州タケエイ	売上高(電気使用量あたり)の向上(営業部門、管理部門)	環境効率：34,757円/kWh以上	43,245円/kWh	☺
	富士車輌(株)	電力消費量の削減	2012～2014年度比2.5%以上削減	7.5%	☺
	(株)タケエイグリーンリサイクル	CO_2排出量の削減 軽油使用量の削減	CO_2削減量40,000t 以上 軽油削減量2,000kℓ以上	CO_2削減量 47,589t 軽油削減量 3,849kℓ	☺
その他	(株)ギプロ	職場作業環境の改善	粉じん測定管理区分の低減化 【管理区分Ⅲ区域の削減】	全測定ポイント(4ヶ所)で目標達成 ・新ヤード⇒Ⅰ区分 ・旧ヤード⇒Ⅰ区分 ・手選別ライン⇒Ⅱ区分 ・紙梱包エリア⇒Ⅰ区分	☺
	(株)北陸環境サービス	いしかわ版里山づくりISO活動の充実	延べ活動参加者数2013年度比160%以上	180.3%	☺
	(株)アースアプレイザル	環境法規制等の遵守	年2回の安全大会実施	年1回のみ実施 【未達理由】安全大会開催の代わりに、担当者より月2～3回程度、最新の法規制および業界動向に係る情報を取りまとめ、社内メールで全社員向けに情報発信し、情報共有化を図ることとしたため	☹
	富士車輌(株)	環境配慮型製品の登録・販売	登録 18件以上 受注 650百万円以上	登録 34件 受注1,013百万円	☺
	(株)グリーンアローズ関東	近隣への環境配慮活動	毎月1回以上	毎月1回以上実施	☺
		設備の安定稼働	設備チェック1日1回以上	1日1回以上実施	☺
	東北交易(株)	継続的な場内使用水の100%循環再利用	再利用率100%	場内使用水の循環再利用100%実施	☺

※(株)タケエイの環境目標とその達成状況は、24ページで紹介しています。

環境負荷低減の活動

リサイクル工場での取り組み

タケエイグループではデマンド監視装置を用いて電気使用量を見える化し、ピーク抑制や省エネ対策に役立てています。また、(株)タケエイ塩浜リサイクルセンターでは、重機メーカーから講師を招き、負荷の少ない運転方法やメンテナンス技術を学ぶことで、環境に配慮した運営につなげています。

重機メーカーを招いての講習会

建設現場での取り組み

(株)タケエイでは、建設廃棄物の分別を支援する「分別支援チーム」が建設現場を巡回し、現場監督や作業員の方に向けた分別講習会や、掲示物による啓発活動等を行っています。現場での分別により、お客さまの環境負荷低減に貢献するとともに、リサイクル工場における中間処理・リサイクルの効率化にもつながっています。

分別ヤード

収集運搬における取り組み

(株)タケエイでは、ネットワーク型デジタルタコグラフを全車両に搭載しており、車両ごとの運転状況等をリアルタイムで把握し、効率的な配車を行うことでCO_2排出量の削減を図っています。さらに、把握したデータをもとに、乗務員へのエコドライブ教育も行っています。

車両にデジタルタコグラフを搭載

オフィスでの取り組み

(株)タケエイでは、クールビズの実施、空調の温度管理により、オフィスでの電気使用量の削減に努めています。また、社内で行われる会議の一部において、紙の資料を配布せずノートパソコン上で資料を閲覧することで、紙資源の使用量削減を図っています。

「川崎市エコ運搬制度」の取り組み

川崎市では、市内の荷主や荷受人が廃棄物の運搬を委託する場合、運送事業者や取引先事業者に「エコ運搬」の実施を要請するよう義務づけています。(株)タケエイ川崎リサイクルセンターでは、受付で「エコ運搬」の実施をお願いするチラシを配布し、エコドライブ等の環境に配慮した運搬をお願いすることで、取引先等を含むバリューチェーン全体のCO_2削減を目指しています。

タケエイグループの再資源化ソリューション（2015 年度実績）

タケエイグループは、さまざまな廃棄物をリサイクル工場へと持ち込み、中間処理を行い、資源へと変えています。これらの資源は、用途に応じてそれぞれのメーカー等へと送られ、リサイクル製品として生まれ変わります。この他にも、地域の未利用材等を用いた再生可能エネルギーを創出する等、持続可能な社会づくりに貢献しています。

建設現場等

INPUT

エネルギー

電気 21,560MWh

軽油 5,606kℓ

都市ガス 776千㎥

ガソリン 347kℓ

LPG 34千㎥

灯油 24kℓ

A重油 30kℓ

アセチレン 159kg

未利用材

間伐材・
りんご剪定枝等 26,399t

タケエイグループの事業

収集運搬

収集運搬量 755,039t

中間処理

中間処理量 703,162t

混合廃棄物

コンクリート、廃木材、金属、廃プラスチック、ダンボール等が混在した廃棄物

手選別

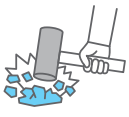
手作業によりリサイクル品（廃プラスチック、紙くず、金属くず等）を抜き取り、選別する

機械選別

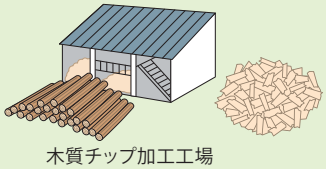
廃棄物の大きさ（サイズ）と重さ（比重）を振動と風力で選別する

破砕

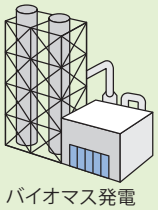
リサイクルに適した大きさ（サイズ）にするため破砕する



再生可能エネルギー事業



木質チップ加工工場



バイオマス発電

OUTPUT

大気

CO_2排出量
29,575t-CO_2
（CO_2排出係数（電気）0.000555 t-CO_2/kWh）

NOx排出量 34t

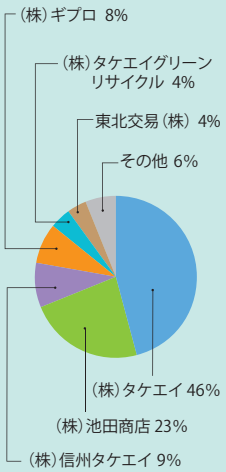
PM排出量 1.3t

リサイクル

リサイクル量 625,794t

最終処分量 77,368t

■リサイクル量の内訳



発電

発電量 16,973MWh
（バイオマス発電と太陽光発電による売電量）

タケエイグループのリサイクル製品

リサイクル量 **625,794t**　　最終処分量 **77,368t**

砕石・砂
生産量 **367,093t**

コンクリートは破砕機で砕き、一定のサイズに揃えます。混合廃棄物中に含まれている土砂等も機械選別を通して、サイズを揃えます。

石膏粉
生産量 **59,255t**

石膏ボードは特殊な破砕と選別を組み合わせた処理で、石膏粉と紙に分けます。石膏粉は原材料として利用されます。

紙くず
生産量 **9,386t**

ダンボールや石膏ボードの紙の部分は、圧縮します。製紙メーカーで原材料として利用されます。

金属くず
生産量 **29,825t**

鉄骨やパイプ等の金属は分解・切断され、鉄・アルミ・ステンレス・銅等の種類別に分けられます。製鉄メーカー等で原材料として利用されます。

エコ・フォーム
生産量 **6,359t**

工場内で廃棄物を処理する際に発生する粉じん（ホコリ）は、他の廃棄物と混ぜて固め、製品化します。

木くずチップ
生産量 **71,648t**

廃木材等は、破砕機で一定のサイズに砕きます。発電用の燃料として利用されます。剪定枝等は破砕後に熟成・発酵させ堆肥として販売します。

可燃系燃料
生産量 **54,591t**

混合廃棄物を機械選別で細かく分けていき、その中で軽い可燃系のもの（紙・プラスチック等）を圧縮します。燃料として利用されます。

セメント燃料
生産量 **20,302t**

廃プラスチックや可燃物の中で品質基準を満たしたものは、破砕・圧縮等の処理を行います。燃料として利用されます。

プラスチック
生産量 **7,335t**

塩ビ管やタイルカーペット等の廃材は、破砕・圧縮等の処理を行います。原材料や燃料として利用されます。

最終処分

最終処分量*
104,279t

リサイクル先

- **建設会社・土木工事会社** ← 土木資材
- **石膏ボードメーカー** ← 石膏ボード
- **セメントメーカー** ← セメント
- **製紙メーカー** ← 段ボール
- **製鉄メーカー** ← 鉄
- **製鉄メーカー** ← 鉄
- **バイオマス発電施設** ← 電力
- **農家・農協・ホームセンター** ← 堆肥
- **廃棄物発電施設** ← 電力
- **熱回収焼却施設** ← 熱利用
- **セメントメーカー** ← セメント
- **プラスチックメーカー** ← 塩ビ管
- **廃棄物発電施設** ← 電力
- **熱回収焼却施設** ← 熱利用

＊タケエイグループの最終処分場で受入れ、埋立てした量です。
　他社からの受入量も含みます。

こんなところにタケエイグループのリサイクル製品

タケエイグループでさまざまな処理を行いリサイクル製品となった後は、メーカーで製品原料として利用されたり、発電施設等で燃料材として利用されます。そこで生まれ変わった製品やエネルギーは、皆さまの暮らしの身近なところにかかわっています。

木くずチップを燃料として発電された電気は、一般家庭等に供給されます。

セメント燃料は、セメントを製造する際の燃料として利用されます。

石膏粉は、再び石膏ボードとして生まれ変わり、建物や天井の建材として使われます。

金属くずは、再び鉄骨等の鉄・非鉄製品へ生まれ変わります。

エコ・フォームは、鋼をつくる際に発生する泡立ちを抑える添加材（フォーミング抑制材）として利用されます。

熟成・発酵した堆肥は、農家等で利用されます。

可燃系燃料を燃やすことで生まれた熱は、ビニールハウス等で利用されます。

紙くずは、再びダンボール等の紙製品に生まれ変わります。

＊

コンクリートは、路盤材や埋め戻し材として生まれ変わり、工事現場等で利用されます。

製品原料としてリサイクルされたプラスチックは、塩ビ管等のプラスチック製品に生まれ変わります。

エコ・ファーストの取り組み

エコ・ファーストとは

企業が環境保全に関する取り組みを約束し、環境の分野において先進的な企業であることを環境大臣が認定する仕組みを「エコ・ファースト制度」といいます。タケエイグループは、2008年11月に廃棄物処理業界として初めてエコ・ファースト企業の認定を受けました。当社グループの取り組みおよび実績データ等は24ページにて公表しています。

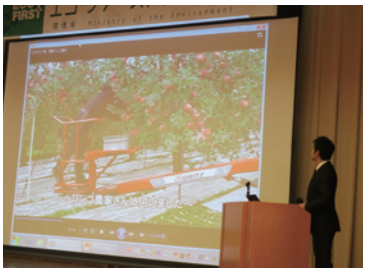
環境省へフォローアップ報告を実施

2016年3月、エコ・ファースト制度に基づくフォローアップ報告会が開催され、タケエイグループも環境省へ取り組み状況の報告を行いました。報告に対して、環境省より「トップランナー目標である再資源化品についての目標は前倒しかつ大幅に上回る達成をしており、循環型社会の形成に貢献した。」というフィードバックコメントをいただきました。当社グループのエコ・ファーストの約束は更新時期を迎えるため、今後は再生可能エネルギーという新たな事業分野の約束も盛り込み、さらに充実した内容で更新することを検討しています。

フォローアップ報告会にて山口社長（左）と丸川珠代環境大臣（右・当時）

「エコ・ファーストシンポジウム」への参加

2015年11月、エコ・ファースト認定企業が自社の先進的な取り組みを広く社会に発信することを目的とした「第1回 エコ・ファーストシンポジウム」が開催されました。（株）タケエイは発表企業として参加し、（株）津軽バイオマスエナジーが行う「地域に根ざしたバイオマス発電事業の取り組み」について紹介しました。（バイオマス発電については特集記事を11～14ページに掲載）


エコ・ファースト シンポジウムにおける（株）タケエイの発表

エコ・ファースト推進協議会による（株）グリーンアローズ東北の視察会

2016年1月、エコ・ファースト推進協議会加盟企業の東北地方における取り組みの共有を目的とした視察会が実施されました。視察先の一つとして、タケエイグループの廃石膏ボード専用のリサイクル工場である（株）グリーンアローズ東北にも推進協議会より12名の方々が見学に訪れました。

（株）グリーンアローズ東北で行われた視察会

第6回「『エコとわざ』コンクール」で「タケエイ賞」を贈呈

タケエイグループを含むエコ・ファースト認定企業39社から成るエコ・ファースト推進協議会は、環境意識の啓発を目的として「エコとわざ」コンクールを開催しています。

当社グループは、1,529点の創作ことわざの中から、神戸市の小学生 君嶋優実さんが考えた「今、この自然に感謝して、私が変われば、気候も変わる」をタケエイ賞（企業賞）として選定しました。2015年12月、東京ビッグサイトで開催された「エコプロダクツ2015」の中で表彰式が行われ、当社グループより君嶋さんに賞状と記念品を贈呈しました。

第6回「『エコとわざ』コンクール」表彰式で、君嶋優実さんにタケエイ賞を贈呈

「エコ・ファーストの約束」への取り組み

タケエイグループが「エコ・ファーストの約束」に掲げている「低炭素社会」「3R」「環境教育」の取り組みについて、2015年度の進捗状況をご報告します。

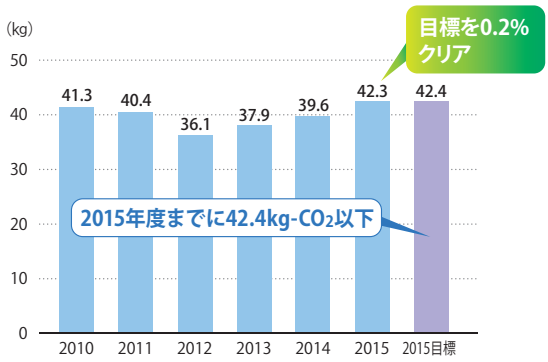
■2015年度 タケエイグループ「エコ・ファーストの約束」の取り組みと実績

目標達成　目標に届かず

	約束	取り組み内容	評価	結果
低炭素社会	①収集運搬効率の向上におけるCO_2削減	・エコドライブ運転の実施、デジタルタコグラフのデータを活用したエコドライブ指導、定期的な車両点検実施による燃費向上	☹	目標30.2kg-CO_2に対し、32.8kg-CO_2
	②事業活動におけるCO_2削減	・低燃費車両/重機の導入、処理設備の改修による効率化、設備稼働時間の短縮	☺	下記グラフ参照
	③オフィス内の燃料・電気使用量削減	・クールビズの実施、空調の温度管理	☺	計画どおり実施
3R	①豊富な収集運搬メニューによるリサイクル推進	・小口巡回回収システムの整備	☺	計画どおり実施
	②建設混合廃棄物のリサイクル推進	・各種機械選別設備や再資源化設備の導入によるリサイクル推進	☹	目標90.0%に対し、83.7%
	③連携スキームによる循環的資源利用の促進	・バイオマス発電の連携スキーム、廃石膏ボードリサイクルの連携スキーム	☺	バイオマス発電スキーム 11～14ページ参照
	④廃石膏ボードのリサイクル推進	・(株)ギプロ/(株)グリーンアローズ関東/(株)グリーンアローズ東北の安定稼働、受入強化	☺	下記グラフ参照
	⑤タケエイグループによるリサイクル推進	・単品専門の再資源化工場の充実((株)ギプロ/(株)池田商店/(株)信州タケエイ/(株)タケエイメタル/東北交易(株)/(株)グリーンアローズ関東/(株)グリーンアローズ東北/(株)タケエイグリーンリサイクル)	☺	下記グラフ参照
環境教育	①分別排出支援	・「分別支援チーム」による分別教育 / 分別デモンストレーションの実施	☺	下記グラフ参照
	②環境保全教育	・社外セミナー / 社内勉強会への参加、資格取得支援制度の実施	☺	資格取得者14名

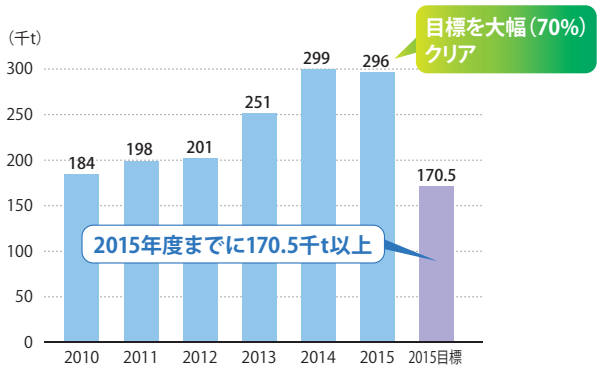
■事業活動におけるCO_2削減

（産業廃棄物の搬出量1tあたりのCO_2排出量）



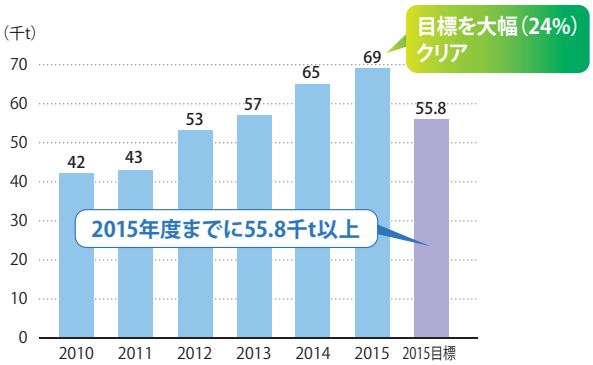
■タケエイグループによるリサイクル推進

〔単品専門再資源化工場での搬出（再資源化）量〕



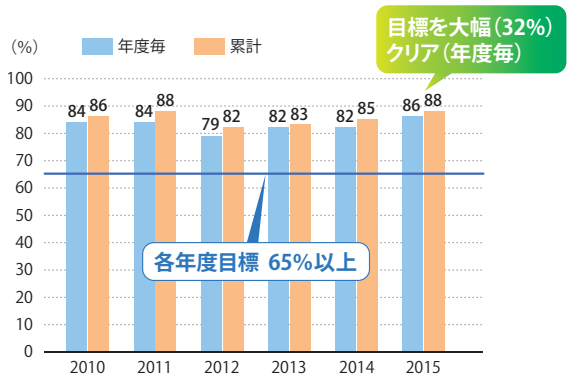
■廃石膏ボードのリサイクル推進

（廃石膏ボードの受入量）



■分別排出支援

（分別支援活動を実施した現場における平均分別率）



地域・社会とのかかわり

社会貢献や地域活性化等の活動に積極的に参加して、
多くの方々との対話や交流を深めることで、企業市民として
皆さまから信頼されるグループであるよう努めています。

地域との共生を目指す活動

「いしかわ環境フェア」への出展

（株）北陸環境サービスでは、環境教育の一環として「いしかわ環境フェア」に毎年出展しています。2015年8月に開催の同フェアでは「ひまわりとホタルの出会い 里山の夏☆平栗の華」というテーマで、平栗地区での里山づくり活動の紹介やひまわりダーツゲーム等、趣向をこらした内容のブースを出展しました。2日間で延べ2,000名の来場者が訪れ、同社の活動を知っていただく良い機会となりました。

また、4月には毎年恒例となる白山いぬわし自然楽校*主催の「カタクリ観察会・写生会」への後援を行いました。当日は白山いぬわし自然楽校の方を講師として、金沢市平栗地区の豊かな自然の中で里山の必要性を学んだ後、カタクリの観察会と写生会を実施しました。前述のいしかわ環境フェアでは、写生会の表彰式も行い、受賞者へ賞状と記念品を贈呈しました。

今後も同社の活動を通じて、未来を担う子どもたちに里山づくり活動の楽しさを伝えていきます。

（株）北陸環境サービスのブースを
訪問された谷本石川県知事（中央）

「カタクリ観察会・写生会」の会場（左）と表彰式（右）

＊白山いぬわし自然楽校：自然体験活動を企画運営し、広く自然体験活動のソフト事業（企画・運営）を行っています。（株）北陸環境サービスが行っている里山再生プロジェクト「ギフチョウが舞う里山づくり」において、自然体験と里山再生の観点からさまざまな提案・サポートを行っています。

「全国植樹祭いしかわ2015」に協賛

2015年5月、「全国植樹祭いしかわ2015」が天皇皇后両陛下ご臨席のもと、石川県小松市の木場潟公園中央園地で開催されました。(株)タケエイと石川県に拠点をおく(株)北陸環境サービスは、「国産材をはじめ森林資源を積極的に利活用していく」という植樹祭の開催理念に賛同し、協賛をさせていただきました。

「全国植樹祭いしかわ2015」会場と
(株)タケエイ三本会長

「親子見学会」を開催

(株)タケエイ東京リサイクルセンターは、東京都のスーパーエコタウン事業*に参画しています。スーパーエコタウンのリサイクル施設では、定期的に東京都〔(公財)東京都環境公社〕が主催する見学会を実施しており、2015年8月には同センターで親子見学会が開催されました。

親子見学会では、同センター内の施設見学を行った後、紙・プラスチック・ビー玉・砂利・鉄の玉・木を混ぜたものを混合廃棄物に見立て、さまざまな道具を用いてそれぞれの種類ごとに分けていく実験を行いました。「分別・リサイクルの仕組みが実感できて楽しかった」という感想もいただきました。今後も、ステークホルダーの皆さまに同センターのリサイクル施設や技術を知っていただけるように、さまざまな取り組みを行っていきます。

さまざまな道具を用いた分別実験

リサイクルの仕組みを説明

*スーパーエコタウン事業：首都圏の廃棄物問題の解決と新たな環境産業の立地を促進し、循環型社会への変革を推進することを目的に、東京臨海部において都有地を活用した廃棄物処理・リサイクル施設の整備を進める事業

「植樹活動」に参加

タケエイグループでは、環境コミュニケーション活動の一環として、植樹活動に参加しています。2015年10月の東京都主催「海の森」植樹イベントでは、(株)タケエイの社員有志とその家族21名を含む東京スーパーエコタウン協議会*のメンバーで、約150本の苗木を植えました。また(株)タケエイ東北支店と(株)グリーンアローズ東北は、震災復興プロジェクトとして宮城県岩沼市が主催する「千年希望の丘」植樹祭に参加し、津波被害の緩和等を目的とした植樹活動を行っています。

*東京スーパーエコタウン協議会：(株)タケエイ東京リサイクルセンターを含むスーパーエコタウン内の９事業者が参加する協議会

(株)タケエイの
社員有志とその家族

「海の森」植樹イベントの様子

安全・衛生のために

安全と衛生の確保は事業活動の基本であり、
社会との共生のための第一歩であると考えています。
無事故・無災害を目指し、良好で快適な労働環境の形成に取り組みます。

労働安全衛生の取り組み

タケエイグループ安全衛生推進体制

タケエイグループは、安全衛生方針に基づき「安全はすべてにおいて優先する」を基本理念に、前年度の結果を踏まえた安全衛生活動計画を策定しています。安全衛生意識のさらなる浸透を図り、安全で快適な職場づくりを継続的に推進しています。

「よこはまウォーキングポイント」への参加

（株）池田商店は、横浜市の健康推進事業の一つである「よこはまウォーキングポイント事業」に参加しています。この事業は、横浜市より配布された歩数計を身につけてウォーキングを行うと、歩数に応じたポイントが貯まり、楽しみながら健康づくりに取り組むことができるというものです。歩数計を携行することで、社員の健康への意識も高まりました。本事業への参加者全員の月平均歩数が10万歩になると、途上国の子ども40人の給食1年分となる20万円が国連WFP＊に寄付されます。参加者の健康増進だけでなく、途上国の子どもたちの給食支援にも役立つ取り組みとなっています。

＊国連 WFP：飢餓と貧困の撲滅を使命に活動する国連の食糧支援機関

救命講習会の実施

環境保全（株）では2015年6月に、（株）タケエイ 東北支店および（株）グリーンアローズ東北では2015年8月に合同で、地元の消防署から講師をお招きして救命講習会を開催しました。講習会では救命措置についての講義を受け、その後AED（自動体外式除細動器）を使用する等して実技を学びました。

また（株）池田商店では、2015年4月より横浜工場の受付にAEDを設置し、社員へ使用方法を周知しています。

救命措置の方法を学び、いざというときに迅速で適切な対応ができるような体制を整えています。

（株）タケエイ東北支店・（株）グリーンアローズ東北の救命講習会

防災訓練の実施

タケエイグループでは、災害発生時の安全確保と被害拡大防止に向けて、各社で防災訓練を実施しています。

（株）グリーンアローズ関東では、2015年11月に火災発生を想定した防災訓練を行いました。当日は、消火器や消火栓の設置場所を確認したうえで、初期消火の訓練を実施しました。さらに無線連絡、通報訓練、人数確認等を行い、緊急時の一連の流れを確認しました。

また（株）タケエイでは、携帯電話とパソコンによる社員安否確認の定期的な訓練を実施し、不測の事態への対応に備えています。

(株)グリーンアローズ関東の消防訓練

「優秀安全運転事業所」表彰を受賞

イコールゼロ（株）は、2016年3月、長野県警察本部交通部長および長野交通安全センター長より、積極的かつ適正に安全運転管理を行い、交通事故防止に貢献したとして、「優秀安全運転事業所」表彰を受けました。この表彰は、自動車安全運転センターの発行する「運転記録証明書」を取得・活用して職場ぐるみで交通事故と違反防止に成果を上げた事業所が対象となるものです。そのためこの受賞は、社員が職場だけでなくプライベートでも安全運転に取り組んできたという努力の賜物でもあります。今後も安全運転を第一に考え、車両の運行を行っていきます。

表彰式の様子

「3Sコンクール」を実施

富士車輌（株）では、毎年12月に「3Sコンクール」を行っています。これは同社の各職場で3Sの改善場所を決めて活動してもらい、改善前と改善後の写真を従業員食堂に掲示して、優秀な職場を表彰するという取り組みです。

2015年度は16部門の参加があり、上川社長以下10名の審査員による審査の結果、優秀賞として「車輌製造部（組立場）」「環境サービス部（倉庫）」「企画管理部（従業員食堂厨房）」の3部門を表彰しました。

環境サービス部（倉庫）の改善事例

（株）ギプロにおける粉じん対策

（株）ギプロは、新築、解体、改修現場から排出される廃石膏ボードをリサイクルする専門工場です。リサイクルの過程で石膏粉が発生し、粉じんとなり浮遊します。そのため同社では、2015年4月より気流を用いた集じん設備を導入し、作業環境の改善を図っています。これは、工場内の片側の壁面に供風口を、反対側の壁面に吸風口を設置することで風の流れを作り出し、工場内の浮遊粉じんの濃度を効果的に低下させる設備です。

この設備の稼働により、工場内の粉じん濃度が最も高くなる時間帯での計測比較では、30分ほどで粉じん濃度が約8分の1となり、職場環境の改善につながりました。

また集められた粉じん（石膏粉）は、再び工場のラインに戻す仕組みとなっており、資源を無駄にすることなくリサイクルにつなげています。

■気流を利用した集じんの仕組み

タケエイグループのCSRに関する取り組み

(株)池田商店

廃コンクリート・鉱さい等の
リサイクル工場
[神奈川県横浜市]

「優良運転手」の表彰

当社は、旭安全運転管理者会様より「優良事業所」および「無事故事業所」として表彰していただきました。私も「優良運転手」として表彰していただきました。引き続き社員一同、「安全第一」に業務に取り組み、「無事故・無災害」を目指してまいります。

事業部
乗務員
阿部 友美

イコールゼロ(株)

廃酸・廃アルカリ等の
リサイクル工場
[長野県長野市]

産廃夏休み親子体験教室

毎年「産廃夏休み親子体験教室」に参加しています。環境保全の心を育成するための一助となることを目的に、長野市内の小学4～5年生の児童と親御さんに、産業廃棄物の発生→中間処理→最終処分の流れを見学・体験してもらいました。

技術GROUP
課長
宮澤 憲一

環境保全(株)

計量証明事業、環境影響
調査等
[本社:青森県平川市
支店:宮城県仙台市、東京都港区]

集めたエコキャップ

現在、ボトルキャップを再利用する、エコキャップ運動を行っています。地球温暖化が心配される中で、キャップの分別回収を行い、焼却処分によるCO_2発生の削減や、埋立処分量の削減につなげ、再資源化の促進に取り組んでいます。

営業部営業課
安全衛生委員
佐藤 光彦

(株)信州タケエイ

混合廃棄物のリサイクル工場[長野県諏訪市]／廃コンクリート等のリサイクル工場[長野県安曇野市]／安定型最終処分場[長野県塩尻市]／解体工事[長野県松本市]

塩尻市エコウォークへの参加

当社では2013年度より塩尻市エコウォークに参加し、ゴミ拾いや外来種の雑草除去を行っています。活動で汗を流した後、参加した社員が皆清々しい顔をしているのが毎回印象的です。引き続き、身近なところから地域貢献に取り組んでいきます。

環境部
赤石 昌洋

(株)タケエイ　川崎リサイクルセンター

混合廃棄物のリサイクル工場
[神奈川県川崎市]

防災訓練

2015年12月、近隣地区の自衛消防隊である「浮島共同防災協議会」と、合同防災訓練を実施しました。実施後は参加者にアンケートをとって反省会を開き、従業員一丸となって地域防災を含めた災害防止活動に努めています。

安全担当
湯前 裕司

(株)タケエイ　塩浜リサイクルセンター

積替保管施設
[神奈川県川崎市]

作業手順教育の筆記テスト

休業労働災害0件の継続に向け、安全衛生巡視パトロールを基に、指摘事項に関する作業手順を実地教育し、筆記テストも行い理解を深めています。また、手順遵守の重要性を伝えることで、安全意識を持って業務に取り組めるよう指導にあたっています。

主任
中松 昌義

(株)タケエイ　四街道リサイクルセンター

混合廃棄物のリサイクル工場
[千葉県四街道市]

近隣の清掃活動

当センターでは、定期的に近隣の清掃活動を実施しています。搬入路の草刈りに加え、大雨や強風の翌日に枝葉を回収したり、側溝の清掃を行ったりしています。近隣美化のお役に立てるよう、今後も活動を続けていきたいと思います。

エリア長
白川 優介

(株)タケエイエナジー&パーク

太陽光発電事業
[千葉県成田市]
パークゴルフ場運営
[千葉県千葉市]

パークゴルフ場

2016年9月のリニューアルオープンに向けて、所属する千葉市パークゴルフ協会連合会・関東パークゴルフ場協議会および各サークル団体と連携し、大会や講習会を主催・協賛することによりパークゴルフの普及活動に積極的に取り組んでまいります。

支配人
吉澤 正己

(株)タケエイグリーンリサイクル

生木・剪定枝のリサイクル工場、堆肥(有機)製造・販売
[山梨県富士吉田市、南都留郡]

植樹した苗木

2016年4月、富士山麓にある富士ヶ嶺第一工場の土地を活用し、将来、燃料用チップ材として利用するため、10種類(1,500本)の苗木を植樹しました。昨年秋に植樹した苗木は鹿による食害で全滅したため、今回は電柵を張って予防しました。

富士ヶ嶺事業所
三浦 功

(株)門前クリーンパーク

管理型最終処分場
[石川県輪島市]
《設置準備中》

白米千枚田での田植え

能登の里山里海を守る活動の一環として、日本海を眺望できる白米千枚田(世界農業遺産)で、毎年、5月の田植え、9月の稲刈りに参加しています。2015年も五月晴れの中、三本社長を先頭に地元の皆さまと(株)タケエイ有志で、心地良い汗を流しました。

サブプロジェクト
マネージャー
中井 利之

その他グループ会社のご紹介

連結子会社

(株)アースアプレイザル
環境調査、エンジニアリングレポート、不動産鑑定業
[東京都千代田区]

(株)タケエイメタル
鉄・非鉄スクラップ等のリサイクル工場
[静岡県静岡市]

(株)田村バイオマスエナジー
バイオマス発電事業
[福島県田村市]《設置準備中》

(株)津軽あっぷるパワー
小売電気事業
[青森県平川市]

(株)T・Vエナジーホールディングス
再生可能エネルギー事業への投融資・運営
[東京都港区]

東北交易(株)
汚泥・燃えがら・ばいじん・鉱さい等のリサイクル工場
[福島県福島市]

(株)花巻銀河パワー
小売電気事業
[岩手県花巻市]

タケエイグループでは、事業を通じた社会貢献を行うとともに、さまざまなCSRに関する取り組みを行っています。(株)タケエイ各事業所およびグループ各社における取り組みの一部をご紹介します。今後も、総合環境企業としての役割を認識し、継続してCSR活動に取り組んでいきます。

(株)ギプロ

廃石膏ボードのリサイクル工場
[埼玉県八潮市]

「3S運動」でがっちり！

県の推進する「3S(スリーエス)運動」に参加しています。3S「スマイル・セイケツ・スタイル」から、処理業のイメージアップを図ろうという取り組みです。お客さまから「清潔な工場・親切丁寧な対応で安心できる」との声をいただき、社員のやる気に繋がっています。

業務部
主任
織田 駿亮

(株)グリーンアローズ関東

廃石膏ボードのリサイクル工場
[神奈川県横須賀市]

近隣の清掃

当社では、5S活動の一環として、工場周辺の清掃活動を実施しました。40分ほどかけて、前面道路のゴミ拾いと工場周囲の植え込みの雑草除去に汗を流しました。今後も、地域の美化に貢献していきます。

課長
夏苅 仁

(株)グリーンアローズ東北

廃石膏ボードのリサイクル工場
[宮城県岩沼市]

岩沼市民の皆さまの見学会

2015年11月に岩沼市生活環境課の主催で市民を対象とした見学会が行われました。参加者の中には震災前に工場周辺に住まわれていた方もおられ、最後に上ったサイロの上から、復興しつつある風景を感慨深げに見つめられていた姿が大変印象的でした。

工場長
田中 誠

(株)タケエイ　東京リサイクルセンター

混合廃棄物のリサイクル工場
[東京都大田区]

「つばさ浜」での清掃活動

毎年10月に、当センターがある城南島で開催される「ビーチクリーンアップin城南島」に参加しています。2015年度は社員有志とその家族14名が参加し、城南島の「つばさ浜」に打ち上げられたゴミを拾いました。

グループ長代理
松岡 悠

(株)タケエイ　東北支店

東北地域における営業業務
[宮城県岩沼市]

柳の植樹

2015年4月より、東日本大震災で津波被害を受けた宮城県亘理町沿岸部で、柳の生育研究に取り組んでいます。柳は地下水位が上昇した土壌に強く、わずか3年程で出荷可能となるため、将来的にバイオマス発電の燃料材としての利用が期待されています。

主任
丹羽 昌義

(株)タケエイ　物流管理部

車両の管理・メンテナンス業務
[神奈川県川崎市]

安全大会

2015年6月に乗務員全員が出席する安全大会を開催しました。コミュニケーションから考える安全講話や、AEDの模擬研修、長期無事故無違反の乗務員への安全表彰の発表などを行い、安全への決意表明を乗務員が宣言しました。

安全運転管理者
朝生 武

(株)津軽バイオマスエナジー

バイオマス発電事業
[青森県平川市]

施設見学

バイオマス発電所の見学受入れを通年行っており、県議会・市議会をはじめ多くの方々が見学に訪れ、地元に根ざしたバイオマス発電にご理解をいただいています。今後は地元の小中学生を対象とした見学も実施し、環境教育の場を提供していきます。

部長
川嶋 淳一

富士車輌(株)

環境装置・環境プラント・特殊車両の開発・製造・販売
[本社工場:滋賀県守山市
支店:東京都港区、大阪府大阪市]

警察署による交通安全教育

2016年3月、安全意識の高揚を図るため、春の全国交通安全運動を前に守山警察署から講師を招き交通安全教育を行いました。本社従業員約90名が参加し、元F1ドライバー中嶋悟氏による安全運転の極意等、興味深い話が聞けて大変役立ちました。

品質保証部
安全管理グループ
松田 和男

(株)北陸環境サービス

管理型最終処分場
[石川県金沢市]
廃プラスチックのリサイクル工場
[石川県金沢市]

メンタルヘルス研修

当社では、社員が健康な心で働くことができるよう、産業カウンセラーを講師に招き、メンタルヘルス研修を開催しています。今回は「聞き上手がコミュニケーションの幅を広げ、より良い人間関係を構築する秘訣であること」を演習を通して学びました。

工場長
上出 彰治

花巻バイオチップ(株)
バイオマス燃料製造事業
[岩手県花巻市]

(株)花巻バイオマスエナジー
バイオマス発電事業
[岩手県花巻市]

(株)横須賀バイオマスエナジー
バイオマス発電事業
[東京都港区]《設置準備中》

持分法適用関連会社

クマケン工業(株)
有害汚染土壌処理剤・汚濁水処理剤の開発・製造・販売等
[秋田県横手市]

(株)グリーンアローズホールディングス
廃石膏ボードリサイクル事業への投資
[東京都港区]

(株)東海テクノ
環境分析等
[三重県四日市市]

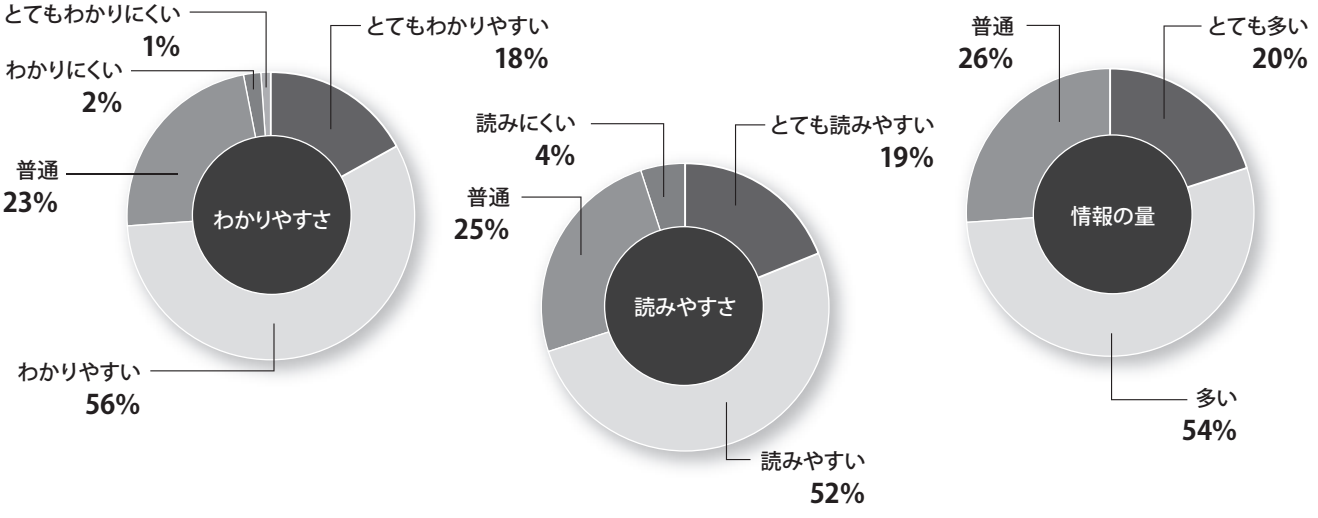
(株)トッププランニングJAPAN
アスベスト除去工事、解体工事等
[東京都中央区]

(株)V・Tエナジーマネジメント
バイオマス発電所の運転・維持管理
[東京都港区]

「タケエイグループ 環境・社会報告書2015」の アンケート結果

2015年発行の「タケエイグループ環境・社会報告書2015」について、アンケートにご回答いただいた方々に厚くお礼申し上げます。いただいたご意見等について、抜粋してご紹介させていただきます。

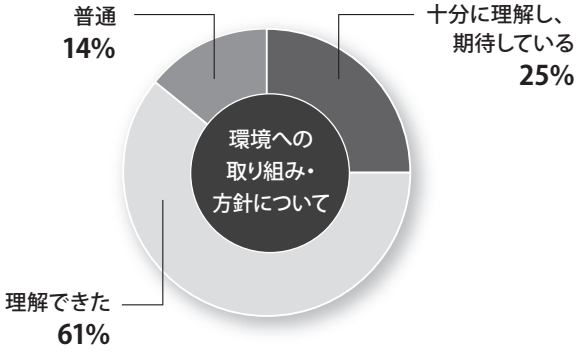
環境・社会報告書2015への評価



特に関心を持った記事（TOP 5）

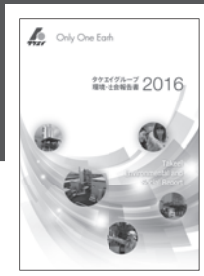
順位	記事名
1位	特集：総合環境企業としての持続可能なエネルギー事業モデル
2位	タケエイグループの事業1
3位	タケエイグループの事業拠点
4位	マテリアルバランスと再資源化
5位	地域との共生に向けた活動

タケエイグループの環境への取り組み・方針



ご意見・ご感想（抜粋）と2016年度版での改善点

ご意見・ご感想	2016年度版での改善点
エネルギーの「地産地消」はすばらしい。今後も、持続可能なエネルギー事業を推進してほしい。	特集に掲載しましたとおり、（株）津軽バイオマスエナジーに引き続き、さまざまな地域において再生可能エネルギー事業を展開していく予定です。今後もご期待ください。
一番気になる再資源化について、もっと大きく取り上げてもいいと思う。	当社の根幹である廃棄物処理事業について、事業の流れを分かりやすく説明したページを設けました。（20～22ページをご参照ください。） また、タケエイグループの環境ソリューションサービスについても、9～10ページで詳しく紹介しています。
写真だけでなくイラストも増やすなどして、子どもや、タケエイグループの事業を全く知らない人が読んでも理解できるページがあると良い。	



「タケエイグループ 環境・社会報告書2016」アンケート

株式会社タケエイ
CSR 推進部 ISO 推進グループ　行　**FAX.03-6361-6839**

「タケエイグループ 環境・社会報告書 2016」をお読みいただき、ありがとうございました。
今後の活動や本誌をより充実させるため、皆さまのご意見・ご感想をお聞かせください。

Q 1 本報告書をどのような立場でお読みになられましたか？

□お客さま　□お取引先　□タケエイグループ事業所の近隣の方　□株主・投資家　□行政機関
□調査・研究機関　□NGO/NPO　□学生　□企業・団体の CSR・環境担当者　□協力会社
□タケエイグループ社員　□タケエイグループ社員の家族　□その他（　　）

Q 2 本報告書を何でお知りになりましたか？

□CSR 推進部からの郵送　□タケエイグループ社員から入手　□タケエイグループ事業所・工場への訪問時
□タケエイホームページ　□説明会、セミナー、展示会等　□その他（　　）

Q 3 本報告書は読みやすかったですか？

□読みやすい　□普通　□読みにくい

その理由（複数選択可）
□レイアウトが見やすい　□レイアウトが見にくい　□情報量が多い　□情報量が少ない
□文字が大きい　□文字が小さい　□イラスト・写真が多い　□イラスト・写真が少ない
□その他（　　）

Q 4 タケエイグループの環境・社会活動への取り組み・方針について、ご理解いただけましたか？

□十分に理解し、期待している　□理解できた　□あまり理解できない　□期待もできず、理解もできない

Q 5 下記 A ～ C の質問に該当する項目番号を選んでご記入ください（それぞれ 3 つまで）。

A 特に関心を持たれた記事は？（　　）　**B** 説明が不十分と感じた記事は？（　　）　**C** 理解できなかった記事は？（　　）

①トップメッセージ　②事業の歩みと展望　③事業の概要　④特集1・タケエイグループの環境ソリューションサービス
⑤特集2・地域と共生する再生可能エネルギー事業　⑥事業ハイライト　⑦経営体制
⑧環境マネジメント　⑨環境目標と実績　⑩環境負荷低減の活動　⑪タケエイグループの再資源化ソリューション
⑫エコ・ファーストの取り組み　⑬地域との共生を目指す活動　⑭労働安全衛生の取り組み
⑮タケエイグループのCSRに関する取り組み

Q 6 本報告書やタケエイグループの活動に期待すること、ご意見・ご感想がありましたらお聞かせください。

（　　）

◆ご協力ありがとうございました。ご回答内容は、特定の個人を識別することができない統計情報として集計・分析・活用させていただきます。

株式会社タケエイ

〒105-0011 東京都港区芝公園２丁目４番１号 A-10階
お問合せ先:CSR推進部 ISO推進グループ
TEL.03-6361-6836 FAX.03-6361-6839
http://www.takeei.co.jp

JPX 東証一部上場

ECO FIRST

COOL CHOICE

印刷における環境配慮

製造に伴って排出したCO2(1部あたり628g)を国内の排出削減事業から創出されたクレジットでカーボンオフセット(相殺)しています。

GREEN PRINTING JFPI P-B10016

ミックス 責任ある木質資源を使用した紙 FSC® C017982

TOYO INK nonVOC

環境に配慮した「グリーンプリンティング認定工場」で、「FSC認証紙®」、VOC削減効果の高い「NON-VOCインキ」「水なし印刷」を使って製造しました。

2016.9 4,000PC